



平和のこと



2025ピースアクション in ヒロシマ報告

日程：8月5日(火)～8月6日(水)

1日目 午前中は、日本生協連主催のプログラム『おかあさんの被ばくピアノ』を視聴しました。被爆3世が被爆ピアノを通じてヒロシマについて考え、自分のルーツを探っていく映画です。

午後は「虹のひろば」に参加し、胎内被爆者の証言や若者による平和活動の報告、全国の生協が行っている平和への取り組みの紹介が行われました。その後、よどがわ市民生協の組合員・働く人から寄せられた千羽鶴を『原爆の子の像』へ奉納しました。平和記念資料館では原爆による犠牲者の写真や証言、遺品の展示など原爆による被害を目の当たりにしました。



2日目 8月6日の朝、80年前と同じ青空広がる暑い中、式典に多くの参加者が集いました。式典後には、原爆ドームの対岸に設置された絵碑（設置に向けて広島県生協連の呼びかけがあり協力）や本川小学校平和資料館（爆心地に最も近い小学校）を見学しました。その後、元よどがわ市民生協組合員である矢野美耶古さん（14歳で被爆）の被爆証言を拝聴しました。建物疎開作業を偶然に休んだために助かった命、その後は「生き残り」と呼ばれ、「死ぬことばかりを考えていた」との当時の辛い思いや証言活動に至った経緯、よどがわ市民生協との出会いなど、貴重なお話を聞かせていただきました。



〈参加者の感想〉(抜粋)

- 未だに当時のことを話すことのできない人がいる現状。広島を訪れることが大事だなと感じました。
- 私は幼い頃から幾度となくこの地を訪れ、小・中学時代当たり前に平和学習で学んでいたと思っていましたが、今回初めて足を運んだ場所や初めて知ったことが思った以上に多くて、大変有意義な2日間となりました。核兵器の持つ残虐性、それがいかに非人道的で世代間で継続されてしまうものなのかなどを知り、しっかりと伝えることも大事ですが、できれば実際に自分自身の五感で感じて考えることが、今とても重要ではないかと思いました。

ピースアクション in オキナワ 『第43回 沖縄戦跡・基地めぐり』

開催テーマは『戦後80年を超えて、沖縄から問いかける「平和とは何か」。沖縄戦の真実の継承』です。戦争体験者が減少していく中、継承が重要になっていきます。多くの住民が巻き込まれた沖縄戦の歴史や実相、沖縄の現状と一緒に学びましょう。

参加条件 ● 2月下旬～3月上旬 事前オリエンテーション
● 4月下旬～6月 報告会

上記に参加し、企画参加後、レポートを提出する。
※フィールドワークのため、健脚で全行程を独力で参加できる。

日時 2026年
3月25日(水)～27日(金) 2泊3日
伊丹空港集合 左記同場所にて解散

※なお、このイベントに関する運送・宿泊に係る手配は、株式会社近畿日本ツーリストが行っています。

NO.2387

申し込み・お問い合わせは ▶ 組織部 ☎ 06-6319-5619 (月～金 9～17時)

※ピースアクション in ヒロシマ・ナガサキ

日本生協連が「平和とよりよい生活のために」という理念のもと、1978年より平和活動「ピースアクション」に取り組んでおり、戦争・被爆体験の継承や、世界のさまざまな戦争や紛争、基地問題、憲法など、多角的なテーマで平和を考える取り組みです。



豊能町農業の未来を考える協議会が開催されました

7月9日(水)、豊能町役場職員と高山真菜の生産者、そしてよどがわ市民生協と『高山まな漬け』を製造している堺共同漬物(今回は欠席)による協議会が開催されました。

よどがわ市民生協の配送エリアである豊能町は、毎年『高山まな漬け』や『ヤーコン』の企画でお世話になっています。協議会では、豊能町の農業が抱える課題や今後の方向性について、関係者が率直に意見を交わしました。



豊能町農業の現状と課題

豊能町では、農家の高齢化と担い手不足が深刻な課題となっています。農地は209ヘクタール・農家は約200戸(2020年度実績)ですが、兼業農家が多く、農業収入は平均50万円以下と厳しい状況です。

就農支援塾の取り組みにより新規生産者は増加していますが、年齢の若返りや農作物の収穫量増加にはまだ課題が残っています。



高山真菜・ヤーコンの取り組み

高山真菜は冷凍原菜の活用により、堺共同漬物による集荷回数が増え、収穫量も増加しました。今後もこの取り組みを継続する方針です。また、ヤーコンの生産量は年々増加しており、2025年は2024年の1,766株から2,000株に増えました。

規格外品の発生を減らすため、700gと1Kgの2品目化や、訳あり(サイズの規格外)の原料を使った企画の導入も検討しています。



地域と生協が連携し、農業の未来を支えるために、
今後も定期的な協議と交流を続けていくことが重要です

『我らよどがわ縁農隊』の役割と課題

現在、『我らよどがわ縁農隊』は茨木市上音羽を中心に農業ボランティアに取り組み、生産者との交流を深め、農業の大切さを学ぶ貴重な機会となっています。収穫を体験し、一緒に地元食材のお弁当を食べ、地域とのつながりを感じられる場になっています。

ただし、農作業に不慣れな参加者が多いので、地元のみなさんと一緒に楽しく作業をしています。また、今年収穫した玉ねぎやじゃがいもをこども食堂に提供もしました。今後は、送迎体制の整備など、参加しやすい環境づくりが求められます。



よどがわ市民生協の学びと今後の展望

今回の協議会では、生産者の高齢化や担い手不足という課題に対し、労働力の確保が収穫量の増加に繋がることが確認できました。

また、本音で語り合える場を設けることで、課題と対策が明確になり、信頼関係の構築にもつながることがわかりました。

